

令和四年度学校文集【令和四年十月】

「社会を明るくする運動作文」 【入選】

だれもが一人一人の居場所を
六年三組 中田 結菜

過ぎのがすい未接もじす犯ををとたまら罪言状しりまる先すスツツ件 だで
去てでしそ地來し、め。罪ばな思人しいやつ態て、う人生るでててがけと暮
のいはたし域がただをそをくくいはた出いてに、ネほはやん見いい報れ思ら
こくなこて、や明られすん犯発しこ、。來じいな他ガど、父だなまい道どいし
とかくと、國るいもるなしさ、ん自つ事めまつ者テの心母ろがすほさもまで
をが、を犯世、といが人孤たせ闇で分らがをしてをイ悲のはうら。どれ、すい
生大そ他罪、と人を獨りて、がいあしたい思ブしバーハ私事でニ
か切の者を界だ思に生をす、追社へ出つたそんにいラ犯疑問んそがま
しだ後に犯にれい優生抱るは人い会だ來た人れだる事とスや
てとど許し、なもましまえんいはやのめ事んもをろ余ををがい感
悲いよて人するがすく、だじら中なやだ過聞う裕考経崩じじな犯罪をさ毎様
しまもうはと住す、い犯とじれに人経去い考みる平た罪思めた、居間験とにてねがえ験れめまんユ起とな
いすにら自考みる等めやいり感場だを思は(ー)なたしてをす。か! こ言事
思。生う分

生いしいがしこ人のと分し位てすう手まとそ言るとた過こな再すいん度大すと移い
きやたやまあ私たとをよ」をま」そ感ごでのしいの葉私と、人去とい度るじ。過切心、すを
たり。りしるは。が傷うを他しとのじくす身たうこをの考もににだの犯とめそちなを他とす
い」でた人。あつな表人たい反ま優。に。言と大母えつ寄間とで罪、またのをの理者どる
とれあ。るけ人しよ。う対しし思な思葉を切はます。こそつい絶犯、としなていう増
とでふすか分。かはたり自葉言も悲、言優分も葉しし知葉先本位にれいらだし
いう私れるわ本まし葉母のたをののから人。な思なそていいいう考とど「思さちすえ。
ま言もると、たの葉をのいがそ切うと世い思しににいはとやて思ま思思り
た。大よと葉母のたをののから人。な思なそていいいう考とど「思さちすえ。
くそにいはとやて思ま思思り

A cartoon illustration of a small brown bear sitting on an open book. The bear is looking down at a single green leaf that has fallen onto the page. The book is open to a page with some faint, illegible text. The background is plain white.

す所。私をはじめ、「だれもが一人一人の居場所を明るくしたいな」と感じやりました。

た事 だのな前ラえさかい たてて
°をたよがににスてんいてわ °聞調國
しく「大なはな」に体聞た いべ語
てさとへっずどと「のきし
いん教んてしの聞か仕まは、 のじゅぎよ
るのえだしてわくい事し る
るこてかまおれと、体をたお
んとくらつか物、のし
だをれ、てなはお仕ておさん
な考ま先後い、父事い父
とえしにかと家さんつすん仕
思なたはら、をはい。は事に
いが ずひここ まら すろなわ し仕
まら すろなわ し仕 んうごすガ教父のつ

【宮崎日日新聞『若い目』
令和四年九月十四日】

台風のこと
三年三組 黒田 桃馬

風がくば たるり台
かきてくだめにに風こ
こえさだかでわながん
なてびけらすとり来しゅう
いこして りますと。は台風がきました。
とわかし家 が死
いかつたには な仕事場
いつた でかつお泊
でたでおお ようで見ていま
すです父父母 す。
す。さんん
。家んん
ものがと
う電い妹
台氣など

〔夕刊デイリー『光の子』令和四年九月二十六日〕

みこなここか少美仕い練後き次そまへかお私
つれれれとみしよ方ち習はれはしずアミ客の
あかなだにのだうをおのひいへてはセの様夢
みらいけつ毛け大覚うみたにアあカツ毛のは
ももかでいの 学えシ す切カみツツを願美
ひあなはて にてヤ られツツコラも切いよ
たみ 美知 むおン るトみでして
すこみ よつ めけこブ 挑戦
ら練習 ゆう てうー の みた
に しお に か
には こ う な

私の夢に向け
六年三組　八木
亞有未

【宮崎日日新聞】
令和四年十月一日

ド 発てわわーん おが
だキ手たれ発にわキ父あわ
けでををしま表言たしさりまし
。どキしあはししわしまんまし
.したげ、たてれはしに見た。
まとまは。ねま。お母さ
んしきしりそーしとた母さ
かたはたきしとた。って言
かん 日は楽しかつ

ドキドキの発表
二年一組

二
一
組
表

海